

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500054		
法人名	社会福祉法人 善隣福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園		
所在地	沖縄県宜野湾市伊佐2-1-6 グランドステージMG地下1階		
自己評価作成日	平成 25 年12月 13日	評価結果市町村受理日	平成26年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4790500054-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の健康チェックと週1回訪問看護師が来られ健康管理をおこなっている。家庭的な雰囲気です。安心して生活が送れるよう支援し、笑顔の絶えない毎日を過ごしています。栄養バランスの摂れた美味しい食事を手作りで提供し職員と一緒に雑談しながら頂いている。個々の出きる範囲で家事等を行い、本人に役割をもたせています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度から事業所の理念「個性を尊重し、持っている力が発揮できるよう支援します。」等を、職員と共に新たに作成し、入居者の持っている力を発揮できるよう支援に取り組んでいる。食事は3食職員が手作りし、食材の下ごしらえ等入居者の力を発揮する場面を作り、食事の際には、職員と一緒に味付けや食材について会話しながら食している。入居後に排泄状況を確認し、リハビリパンツから布パンツにパットへ殆どの入居者が移行し、コスト削減にも取り組んでいる。家族へ入居者の生活状況を記した情報提供書とスナップ写真を掲載したグループホームだよりを毎月送付し家族にも喜ばれている。法人全体として、介護福祉士資格取得後、また、勤続3年経過した職員は、正社員への登用の機会があり福利厚生に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成26年2月21日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年から新たな理念を挙げ、理念を玄関、冷蔵庫のドア、トイレに提示し、常に理念を意識しながら実践に努めています。	理念は、昨年の3月頃から職員一人ひとり大切にしている言葉を出し合い、4月に管理者が文章化し、地域密着型サービスの意義を踏まえて作り上げている。毎月の「グループホームだより」に掲載している。入居者の「持っている力が発揮できるよう」洗濯干しや、洗濯たたみ、材料の下ごしらえ等を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事へ参加したり、ヤクルトの訪問販売、美容師を受け入れています。施設行事には地域、家族を招き交流を図っています。	自治会の納涼祭や新春の集い等に入居者と職員で参加している。事業所では、家族、地域の方、民生委員を招いてカレーパーティーを開催し、入居者と交流を図っている。小学生や羽衣チャレンジ隊のボランティアを受け入れ、洗濯たたみや食事作り等を入居者と一緒に行い過ごしてもらう等取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に出かける中で情報交換を行なっています。相談に応じ、地域の方々に貢献できるように取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況報告、行事報告、ヒヤリ、事故報告を行なっています。アドバイスは改善に向けサービス向上に努めています。	今年度の運営推進会議は、年5回の開催となっている。入居者が毎回参加されるようになり、委員の方から、「入居者の生の声が聞けてよかった。」との意見もあった。外部評価の結果や課題について、事故報告・ヒヤリハットに関する報告を行い、「地域との交流はボランティアの力を借りては。」等助言を受けている。	事業所の活動状況や入居者の状況が地域に理解され、認知症の方が地域とつながりを持っていくためにも定期的に(2ヶ月に1回以上)開催することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のグループホーム連絡会を年2回開催。解らない点、疑問な部分は電話又は、訪問しアドバイスを受けています。	包括支援センター職員から、運営推進会議に参加したいとの意見があり、新年度から参加してもらうことになった。年2回、市のグループホーム連絡会に参加し、意見交換を行っている。事業所の敬老会等に市担当者の参加依頼は行っているが、参加には至っていない。研修会の情報はファックスにて受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、安全面を考え、家族の同意を得て食事時間のみ行なう場合がある。	いつでも入居者や家族が出入りできるよう、玄関や勝手口は鍵を開けている。朝、昼の食事時間のみ身体拘束を行う場合があるが、入居者の状況により立ち上がりがない場合は、解除し食事介助を行っていた。家族の同意書には、行う時間帯、解除の期間等は記述されているが、経過記録の記載が確認出来なかった。	身体拘束をしないケアに取り組むためにも、入居者の経過記録に入居者の状況を記述し、モニタリングを実施する事で再検討できるよう取り組みに期待したい。

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員研修で虐待防止について学ぶ機会を持ち、ミーティングにてお互いのケアのあり方について話し合っています。不適切な言動、態度がないよう職員全体で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は少ないが、権利擁護に関する資料は独自で学べるよう、目の届く所に綴っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分理解できるよう説明をしているが、再度、確認のため一旦持ち帰って頂き、納得した上で同意をもらっている。不安、疑問には解りやすく説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情ボックスを設置していますが利用された事はない。口頭にて意見や要望を聴ける雰囲気作りに努めています。出された意見、要望等はミーティングにて話し合い、改善に向けて話し合いを行なっています。	運営推進会議の参加や、入居者とは日頃の生活の中で個別に意見や要望を聞く機会を得ている。家族からは、面会時に要望などを聞くようにしている。入居者から、「職員によってケアの仕方が違う。」との意見に、職員が統一したケアを行うようミーティングで話し合い、改善に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は月1回のミーティングで話し合い叶えられるようにしています。業務中でも気付いた点を話し合う。	職員から毎月の定例ミーティングや申し送り等業務内でも意見や提案を受けている。仕事の流れや業務分担等について話し合われている。「掃除道具、即座に測定できる体温計や血圧計を購入して欲しい。」との意見があり購入している。職員は掲示物、新聞ホームだより、メニュー作成等それぞれ係りを担当し力を発揮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が資格取得した際には条件が整備され、向上心を持って働きやすい環境であります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県グループホーム連絡で開催する研修会等に参加し、職員の知識、意識向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に参加して他事業所と運営面、サービス面等の情報交換を行い、質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行なう事で生活歴、生活状況を知り、入居者の思いを聴き安心して生活ができるよう信頼関係に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に十分話し合い、家族が困っている事を聴き、今後、どのように過ごせたいのか、ゆっくりと話し合い希望に添えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時には本人、家族の思いを確認しながら、必要なサービスが受けられるようにしています。グループホームでの生活が困難と思われる場合には必要な支援の対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状況に合わせ、その日に出きる事を一緒にやり、共に協力出きる関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の暮らしを伝えたり、月に1回は担当職員がホームでの状況報告を文書で郵送して連携に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、利用していたデイサービスに出向いたり、ホームの行事に招いたりして、関係が途切れないようにしています。	地域で入居者がどのような人や場所と繋がりを持っているか、家族や知人、同級生が面会に来られた際に聞き取り把握に努めている。入居者からは、「昔農業をやっていた。」「人形作り、洋裁をやっていた。」等日頃の会話の中で話してもらうようにしている。家族の協力を得て、生家や親せきの家に訪問し仏壇に手を合わせてきた方もいる。	

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性を尊重し、テーブルの配置等も工夫しています。難聴の入居者には誤解のないよう職員が間に入ったり、共通の楽しみをみつけるようにしています。状況に応じた対応に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、入院先へのお見舞い、他施設入所後も家族と交流を持ち面会等も行っています。相談を受けたり、適切なアドバイスを行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で一人ひとりの思いを把握し、外出支援等を行いつつ、職員での対応が困難な場合には家族に協力を得ている。	日常会話の中で、入居者から「刺身が食べたい。」「お寿司が食べたい。」「天気がいいので、外出したい。」等の意見があり、ドライブや散歩、外出等職員が対応している。事業所では対応出来ない場合は、家族の協力を得て、外食する方もいる。把握が難しい場合は利用者の表情や仕草から思いを汲み取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者より情報収集を行い、今後の生活支援に繋がるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックと申し送り記録にて把握できるよう努め、定期的のミーティングを通じ、心身の状況の把握をし職員で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護保険更新時又は、状態変化がある場合には介護計画の見直しを行なっています。本人、家族のニーズを聞き、職員と話し合い介護計画作成に努めています。	入居者、家族参加のもと担当者会議が行われ、更新時や状態変化に伴う随時の変更時にはアセスメントや計画の見直しを行っている。毎月モニタリングを実施し、法人のデイサービスへの参加、交流や入居者の役割(洗濯干し・洗濯たたみ)等介護計画に反映させ参加出来るよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録しています。変化があった場合には申し送り簿にも記録して職員で把握できるよう情報を共有しています。月に1回のミーティングでも話し合い、より良い介護計画作成に努めています。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診は基本的に家族が対応する事になっているが、必要に応じて病院受診を行ったり、個々の買い物に行ったりして、本人、家族の要望を聞き入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	母体の行事やデイサービスに参加したり、地域のイベントに出かけたりして交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族が対応する事になっているが、必要に応じて付き添いを行なっています。受診時には本人の心身の状態、生活状況を口頭、または書類で情報提供をしています。	かかりつけ医に家族対応で受診しているが、家族が対応できない時や、緊急時には職員が受診支援している。週1回の訪問看護において、入居者の健康チェックと職員の相談に応じてもらう等医療との連携を図ることで、本人、家族、職員の安心に繋がっている。また、歯科や眼科など入居者の状況に応じて適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問看護の際、日々の状態を報告して相談し助言を頂いている。状態変化を早目に察知でき、適切な対応支援を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院には家族、病院側との情報交換に努め、本人が不安無く、安心して過ごせるようにしています。又、早期の退院に向けての話し合い、相談を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、医療が必要となった場合や重度化した場合にはホームでの生活が困難である旨を伝えていますが、ご家族の希望を伺い病院や特養と連携して取り組んでいます。	「重度化・終末期対応指針」を策定し、看取りを行う準備をしている段階で、容体が急変しお亡くなりになった事例がある。事業所は常時医療が必要(インシュリン注射、痰の吸引、胃ろう等)になった時は、病院、特養へ入院を支援し、それ以外は、医師、看護師と連携し看取りをする方針であり、入居者、家族に必要な時に説明している。	入居者の終末期への思いを汲み取るためにも、入居者、家族へ事業所の方針を利用開始時に説明し、早い段階から話し合いを繰り返し行うことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には管理者、家族へ連絡し早急に対応をしています。法人全体で救命救急の講習会を学ぶ機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防、業者の立会いのもと、年2回(日中・夜間)の防災訓練を実施する。同じ建物の方にも参加して頂きました。	消防署立会いの下、昼夜を想定した訓練を年2回実施し消火器の使用、避難等を訓練している。同ビルに住む法人理事長も参加している。ホールには避難経路が貼ってあり、日ごろより意識するようになっている。備蓄は衛生用品や、ガスボンベなどは用意されているが、食料、水は保管されていない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけないよう、個々の性格や、その時の心身状態を意識しながら対応に努めています。	入居者の状況に合わせて敬語で話しかけたり友達のように接するなど、その時々で個人を尊重した対応をしている。ケアの中で不適切な言葉づかいがあった時には、管理者は職員の気づきを促すようになり、繰り返されるときには注意をしている。トイレ前にチェック表がかけられているが、プライバシーに配慮して、すぐに見えないようになっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意見を確認したり、日頃のコミュニケーションから本人の思いや希望が表現できるような場面作り、言葉添えをして自己決定がしやすいよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースにならないよう意識し、個々に合わせた支援ができるよう配慮しています。出きるだけ、本人の希望に添えるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で決められる方は自分なりのおしゃれを楽しみ、出来ない方は本人の要望を聴きながら、その方らしい身だしなみを配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備(野菜の仕込み、もやしのひげ取り)や配膳、食器洗浄、拭き、等ができる入居者は職員と一緒に、それぞれの能力に応じて参加して頂いています。	献立は、担当の職員が毎月の献立を考え、職員が三食調理している。入居者は、昆布を結んだり、野菜の下ごしらえをして調理に参加している。職員も食卓を囲み同じ食事をとり、会話しながら入居者にあった食事介助をしている。毎日のように夕食時には家族が訪れ居室で食事をする入居者もいる。時には外食してバイキングを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックし記録をしている。個々の咀嚼、嚥下状態に合わせた、食事形態、水分は好みに合わせ美味しく飲用できるように提供しています。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状態に合わせ、毎食後の口腔ケア(促し、見守り、介助)行なっています。義歯の方は入眠時には水、又は洗浄剤対応を行い清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の訴えだけではなく、入居者の様子や仕草等、排泄パターンを把握し支援を行なっています。日中はなるべく布パンツを使用し、自立に向けた支援を行なっています。	トイレの前に排泄チェック表が掛けてあり、一人ひとり1ヶ月毎の排泄パターンを把握し支援している。紙おむつからリハビリパンツ、布パンツに替えられた入居者がおり、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は居室のポータブルトイレを使用しての排泄等、一人ひとりの状況に応じた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録を行い、水分補給、食事面にも配慮しています。水分の摂取量の少ない方は好みの味にして、色々工夫しています。必要な方は処方された便秘薬を服用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回午前中に行っています。入浴を嫌がる方には時間をずらしたり、タイミングをみながら対応しています。あかすり希望の方は時間をかけ、満足して頂けるよう支援しています。その他、外出、病院受診に合わせ、個々に添った支援を行なっています。	入浴は個浴で、入居者の状態により見守りや出来ないところを支援、二人介助等で個々に浴った支援をしている。入居者のこだわりに合わせて、強く洗う、髪の毛をブラシでとかす、石鹸を良く流すなどの要望に応え入浴を楽しめるようにしている。入浴をしない日にも、衣類を選択してもらい更衣介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の本人の生活リズムで過ごして頂き、好きな時間に休んでもらい自由であります。季節に応じて部屋の室温調整を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量の説明書を確認できるように、個々の薬セット容器に貼り付けてあります。薬の変更があった場合には、申し送り簿に記入し職員で共有する。症状変化があった場合には看護師、又は主治医に連絡して指示を頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力量に合わせた活動をしています。家事等も役割を決めたわけでもないが、生活の中で役割分担が出来て個々のペースで行っています。時には気分転換にドライブに出かけます。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 愛誠園)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望の外出に添えるのは困難であり、家族の協力を得ながら支援をしています。散歩へ行く地域の方から、声をかけられるようになっていきます。	近隣を散歩したり、利用者と洗濯物を干しに階下へ降り外気に触れたり、玄関前の広い踊り場に出て気分転換する等の支援をしている。納涼祭に参加し、家族とエイサーや花火を見て、地域の方と交流している。外食や花見(ひまわり、コスモス)、ヨットハーバーにドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がお金の管理が出来ない為、家族が行なっています。お一人のみは自分で管理して銀行の引き出しは家族が支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望があれば、いつでもTELが出きる支援をしています。県外にいる家族とはTELやFAXでのやりとりを行なっています。毎年、年賀状を書いて頂き、書けない方は代筆支援を行なっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋全体が明るく、十分に照明等に気配りをして落ちつける環境作りに努めている。対面式キッチンなので、職員が調理をしながら入居者と会話も出来て温かく家庭的な雰囲気でも過ごせるように努めています。	台所は対面式キッチンで居間、玄関まで見ることができ、入居者の様子を見守りながら調理している。床が濡れていると滑るのですぐに拭く、また、トイレなどで台所を離れる時には火を消し包丁をしまう等、入居者が安全に過ごせるよう気を付けている。居間には、手作りの日めくりカレンダーが掛けてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは新聞を読んだり、テレビ、ビデオを鑑賞したり、入居者同士が雑談したり、皆さんが集まる場所になっています。ホール、玄関先には椅子を配置し思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの物、好みの物を持って来て頂けるよう本人、家族に説明しています。使い慣れた家具等を置き、自宅と違和感なく生活ができるように支援しています。	各居室には、ベッド、クローゼットが備え付けられ、入口の引き戸は大きく、車いすでも楽に出入りができる。加湿器を置き感染症予防をしている。家族の写真を飾ったり、テレビやソファを持ち込み居心地良く過ごせるようにしている。また、ピンク色が好きだった入居者の部屋は、ピンクで統一されその人らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保ができるよう、ホール、トイレに手摺りを設置しています。自室、トイレ、浴室には解りやすいように掲示しています。		